

2013(平成25)年度NBRPショウジョウバエ運営委員会議事要旨

日時：2013(平成25)年8月30日(金)13:45～15:45

会場：京都工芸繊維大学学道会館 小会議室

出席者：小嶋(委員長)、井垣、嘉糠、上川内、木村、鈴木、多羽田、丹羽、山崎
上田、高野、和多田、松田、倉永、後藤の各委員

欠席者：明石、佐藤、松尾の各委員

オブザーバー：近藤、矢野(遺伝研)、都丸、大迫(工織大)、栗崎(杏林大)

事務局：総務企画課研究推進チーム事務職員(遺伝研)、NBRP事務局員
研究推進課副課長、研究推進課研究協力係長(工織大)

議事に先立ち、代表機関課題管理者である上田委員から工織大関係者各位へ会場設営及び準備等に対し謝辞が述べられた。

【議事】

1. 2013年度計画と進捗状況について

資料2に基づき上田委員から、2013年度事業計画書に記載した内容を元に、リソース全体の今年度これまでの実績及び来年度計画について説明があった。

その他、各機関より以下の報告があった。

・国立遺伝学研究所(上田)：

H25年度事業計画(RNAiシステムの収集・維持・提供、バックアップ体制の整備、データベース整備、広報、遺伝子組換えシステムの復元)について

・京都工芸繊維大学(高野)：

H25年度事業計画(システムの収集・維持・提供、データベースの充実、リソースの品質管理、リソースの品質向上、情報公開・広報活動)について

・愛媛大学(和多田)：

H25年度事業計画(バックアップ体制の整備、積極的な広報活動、データベースの改良、輸入許可種の申請)について

・杏林大学(松田)：

H25年度事業計画(近縁種突然変異システムの収集・管理・提供、システム維持のバックアップ体制、データベースの充実化、ワークショップ・講習会の開催)について

2. 統合データベースについて

資料1に基づき、上田委員から、4機関に分かれている系統情報を統合し、MTA承認もオンラインで送信でき、ユーザーに負担をかけないシステムを作っていきたいとの発言があった。また、ワーキンググループを設置し、各機関の系統情報をどのように検索するか等の具体的な問題点について3月より討議を開始し、今後も議論を継続する旨の報告があった。

その他以下の意見交換を行った。

- ・統合した場合のクレジット課金について、現時点で状況が異なるため事務的手続きのハードルが越えられるかどうか
- ・機関間の契約は難しいが、型が決まればユーザーに対応するのは大変ではない。
- ・支払を統一してしまうとクレーム対応の問題があるので、統一しなくてもいいのではないか
- ・別々の機関のストックを一度に提供依頼した場合、それぞれのハエがどの機関から送られるのかわかるようにしておくとい

3. 多様性研究会について

資料1に基づき、上田委員から、研究交流/講習会の場を設けるため、9月28日(土)~30日(月)に国立遺伝学研究所で開催予定の「研究会」を活用し、ミニシンポジウムを行う旨の報告があった。

4. 第3期における系統の収集方針について

資料1に基づき、上田委員から、ストックセンターの価値を維持するためにはリソースの固定化を避け、見直しとアップデートが必要との発言があり、現在の役割分担について説明があった。その上で、将来活動方針について、各機関より以下の説明があった。

- ・ 国立遺伝学研究所 (近藤) :
最近の技術的進歩による null 変異体ライブラリ実現の可能性
遺伝子導入サービス
- ・ 京都工芸繊維大学 (高野) :
発現ドライバー系統及び新奇作出系統の収集、国内ラボの作出支援
- ・ 愛媛大学 (和多田) :
ゲノム情報の整備
- ・ 杏林大学 (松田)
世界に散在する (絶滅危惧) 系統の収集
遺伝子導入システムの整備により変異体の収集

5. 基盤技術整備プログラムについて

資料1に基づき、上田委員から、NBRP 基盤技術整備プログラム (卵巣移植による系統凍結保存法の開発) について、以下の報告があった。

- ・ 生卵巣を用いて、移植法の確立はできたが、成功効率は使用する移植針の鋭さに依存し、現在更なる改善を試みている
- ・ 今後は、凍結融解卵巣での生着率の検討に入る予定である

以上